

タウンピックス TOWN TOPICS



村井橋補強工事で感謝状を贈呈

国道367号(朽木村井地先)の大型車輛通行回復に向け「災害救援活動応援協定(災害時における応急救援活動への応援に関する協定書)」に基づき、社団法人滋賀県建設業協会高島支部長に要請しました市道村井橋補強工事については、株式会社K.E.C本店が現場責任者となり、連休返上で資材等の手配をすすめられ、5月8日から工事着手されました。地域住民や現場周辺の交通

安全への配慮はもとより、緊急工事にもかかわらず工期短縮にも努められ、5月22日の午後に車両の通行が可能になりました。

こうしたことから、地域復興にご尽力いただいた功績を称え、両者に市長から感謝状が贈られました。

▼感謝状被贈呈者

- ・社団法人 滋賀県建設業協会高島支部 株式会社
- ・株式会社 K.E.C 本店

JR西日本では、管内にある約7,000本の高架橋を対象に耐震診断を行い、このほど対象とした耐震診断が終了し、この7月から耐震補強工事が行われています。

特に湖西線は、列車の走行本数は耐震化を義務づけた国の基準を下回っていますが、地震発生の懸念される琵琶湖西岸断層帯に沿って走る上、高速運行区間であることから、早期に高架橋の補強工事の実施が決定されました。

平成18年度の市内における工事実施区間は、近江高島駅からマキノ駅間の高架橋674本で、今後、平成22年度までに順次工事が進められます。

なお、今回の補強工事は高架橋の柱をコンクリート板で囲み、その周囲をワイヤで巻き上げ、柱を補強する工法で行われます。(交通対策課)

◆病院改革室(建設準備室)を設置
公立高島総合病院の17年度決算は、市一般会計からの繰

市行政組織の一部を見直し 体制整備
市政の懸案事項である公立高島総合病院の経営改善対策と改築計画の方針樹立および市発注の大規模工事(建築、土木)の設計審査と工事の監理、検査を強化するため、市行政組織の一部を見直しました。

入約6億1千万円を行っても約3億5千万円の赤字見込みで、累積赤字は、13億4千9百万円にのぼり、病院の経営改善は、当市の財政再建を進める上での喫緊の課題です。また、耐震基準を満たした病棟への改築計画についてもその方針を早期に決定し、経営改善対策との両輪で病院改革を行うっていくことが必要です。このため、これらの諸問題

◆土木、建築工事等の審査・監理・検査体制を強化
市発注の大型土木・建築工事について、計画、設計から工事施行に至る審査・監理等のチェック(監視、評価業務等)を統括所掌する部局として土木交通部内に「工事審査監理室」を設置しました。

に対応するため、健康福祉部に「病院改革室(建設準備室)」を設置しました。(事務室は、公立高島総合病院内に設置)

JR湖西線 耐震補強工事はじまる!



市民の皆さんには、公共料金の値上げ等で我慢を強いる状況となっておりますが、市役所としても、これまでにない厳しい対応で行財政のスリム化に取り組んでおりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

を廃止することが6月議会承認されました。これは、すでに4月から廃止されている職員の出張旅費の一部(日当分)廃止に呼応し、決定されたものです。

また、集中的な職員定数の削減に向け、計画・調整を図っています。

運賃に統一します。
なお、江若交通の朽木線と古賀線、JRバスの若江線については、従来どおり路程運賃(乗車距離に応じた運賃)が基本となることから、コミュニティバスとの運賃の均衡を図るため、引き続き運賃助成を行います。

この改正は運賃収入総額に変更が生じるものではなく、あくまで利用者に負担いただくバス運賃を統一し、格差を是正するものです。

■みんなで乗って育てよう
もっと便利な公共バス運行
これからは、ますます高齢化が進み、今は自家用車を運転している方も、いずれ運転できなくなる時期を迎えることとなります。

近年、公共交通機関は、交通渋滞の緩和、環境の保護などの観点からその意義が見直され、自家用車の使用を控え、コミュニティバスと鉄道を上手に利用する動きも見られるようになってきています。

高島市においても、市民

■市も努力します
広報たかしま4月15日号でもお知らせしましたように市では今年度から市長等特別職と議員の期末手当を削減するとともに、職員給与の引き下げを行いました。

7月1日からは、議会議員の出張旅費の一部(日当分)

「乗りたい時間にバスがない」「バス停まで遠い」など、まだまだ不十分な点もあると思いますが、今後引き続き市民の皆さんに愛される公共バスの運行が維持できるように、積極的なバス利用をお願いします。(土木交通部交通対策課)